



Data

監督: ジョナサン・ミロ&カリー・マーニオン

出演: デイヴ・パウティスタ/ブリタニー・スノウ/アンジェリック・ザンブラーナ/ジェレミー・ハリス/マイラー・ルクレシア・テイラー/アレックス・ブロー/アルトゥーロ・カストロ

■■■ショートコメント■■■

◆チラシによると、本作のストーリーは次のとおりだ。

**謎の軍隊に侵略された街で、
生き残りをかけた戦いが始まる!!**

ニューヨーク州・ブッシュウィック。大学院生のルーシー（ブリタニー・スノウ）は家族に会うため地下鉄の駅を降りた。異変を感じつつも地上に出ると、上空をヘリや戦闘機が旋回し、おびただしい数の銃弾が飛び交い、ミサイルや手榴弾が炸裂。見慣れた街が、突如戦場と化していた――。

戦闘状態の街に放り込まれ、逃げ惑うルーシーだが、謎の男スチューブ（デイヴ・パウティスタ）と出会い、生き残りをかけて戦う決心をする。行き交うのは謎の軍隊。何者による何の為の殺戮なのか？

**見えない敵への恐怖の先に、
衝撃のエンディングが待ち受ける!!**

そして、本作の「売り」は「前篇10カット・長回し！」だ。これは「究極の臨場感を突き詰めた予測不可能なノンストップ・サバイバル」のためだが、さてその成否は？

◆なぜ突然そんな状況になったの？その説明は、スチューブ（デイヴ・パウティスタ）が倒した1人の兵士の口から語られる通り、ニューヨーク州がアメリカ合衆国から独立するため。つまり、新たな“南北戦争”が勃発したわけだ。それは一瞬「なるほど！」と思わ

せる面白い設定だが、いかにせん本作はそれについて体系立った説明は全くない。また、それに沿ったストーリー展開も全くないから、その設定は本作のストーリー形成に全く寄与していないのは実に残念だ。

◆他方、ルーシー（ブリタニー・スノウ）の彼氏が冒頭で地下鉄の駅から1人でノコノコ出て行って、すぐに爆弾で死んでしまうところを見ると、「この男はバカか」と思ってしまう。さらに、ルーシーも、あんなヤバイ状況の中、1人でノコノコ外に出ていく神経が全くわからない。こんな場合は、地下鉄の構内に身を潜めて隠れているのが一番安全！子供でも、それくらいすぐにわかるはずだが・・・。

◆中盤の2つの“山場”では、やむなくスチューブもルーシーもケガをしますが、ハッキリ言ってこれもバカげた行動のツケ。また、その治療ぶりをみるとその重傷ぶりがよくわかるが、その後の2人の行動を見てみると、健常人とほぼ変わらない元気さだから、アレレ、そんなバカな・・・。

◆どんな映画でもそれなりのクライマックスの設定が不可欠だが、本作では何もないのがクライマックス！そんな考え方で「ラスト」を設定しているので、それに注目！しかし、そもそも本作にみる2人の主人公の行動は何のためだったの？そして、ニューヨーク州のブッシュウィックの“動乱”はどう収まったの？私の興味は前者ではなく、むしろ後者だったが・・・。

2018（平成30）年8月28日記